

第4学年1組 学級活動指導案

1. 日時・場所 平成30年6月6日(水) 5校時 (13:45~14:30) 4年1組教室

2. 議題「一人一人が仲よくなる集会をしよう」

学級目標 「まけないえがお」

ま まじめ まとまり え えがお

け けじめ が がんばる

な なかよく お おもいやり おもいで

い いじめのない

3. 議題について

(1) 児童の実態

本学級は、笑顔が絶えず活発な児童が多く、楽しい学校生活を送っている。また、男女ともに仲がよく、困っている友達がいると、優しく声を掛けたり、手伝ってあげたりするなど、思いやりの気持ちも育てている。しかし、自分の気持ちを正直に伝えるがあまり、トラブルになることもあれば、自分の気持ちを伝えることに抵抗を感じ、消極的な児童もいる。1年の最後に「このクラスでよかった」と思えるように自分たちでクラスをつくっていくことを、この2か月で何度も全体で確認してきた。そんなクラスがめざす学級目標は「まけないえがお」である。一人一人のクラスに対する思いや、どのクラスにも負けない笑顔で1年間を送るという思いが、この言葉にこめられている。

学級会では、主に「集会で何をするか」について話し合ってきた。第1回目の「スタート集会をしよう」の学級会では、柱1の話合いに時間が掛かり、柱2の「盛り上げる工夫」を話し合うことができなかった。反対意見が多い中、友達の考えのよさを生かした折り合いをつける姿が見受けられ、最終的には今までやったことがない新しい遊びが生まれた。話合いが進むためにはどうすればよいのか、第1回目の学級会で経験できたことは大きな成果となった。第2回目の学級会では、前回の学級会や実践の反省を生かした集会をしたいという児童の思いから、議題を「スタリベ(スタートリベンジ)集会をしよう」とした。前回の学級会では、一部の児童しか発言する姿が見られなかったが、今回は自分の思いを伝えようとする児童が増えた。しかし、めあてを意識した発言ではなく、自分がやりたい遊びに意見が集中した。実践では、準備期間が短かったこともあり、学級会で決めた2つの遊びのうちの1つが上手くいかず、結局その遊びをできずに終わってしまった。児童にとって不完全燃焼ではあったが、これも大切な経験である。今回は、この経験をふまえて、自分たちのクラスをよりよくしていこうとする学級活動になることを期待している。

(2) 議題選定の理由

運動会後、議題ボックスには「学級目標に近づくためには、どうすればよいか話し合いたい。」「最近、クラスの中でけんかが多いから仲良くなれる集会をしたい。」「教室での集会が多いから体育館や校庭の集会をして話したことがない人とも仲良くなりたい。」など、集会を通して仲よくなっていきたいという意見が多数寄せられた。このことから、「一人一人が仲よくなる集会をしよう」という本議題を選定した。前回の学級会で課題となった「めあてに沿った発言」や「実践に向けた入念な準備」などを意識し、学級活動を通して、仲間と共に協力し合い、作り上げていくことの楽しさを感じさせたい。また、一人一人が活躍することによって自尊感情や自己有用感を高めていきたい。

4. 評価規準

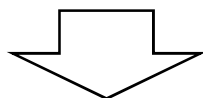
集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級の生活上の問題に関心をもち、他の児童と協力して意欲的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、協力し合って実践している。	みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の計画的な進め方について理解している。

5. めざす子どもの姿に迫るための手立て

研究テーマ

互いのよさを生かし合い、一人一人が輝く特別活動

～「なすことによって学ぶ」共に歩む姿をめざして～



中学年のめざす子どもの姿

○自分の考えを進んで伝える子

【自分に自信をもてる姿】

○一人一人のよさを認め合いながら活動する子

【仲間と共に歩もうとする姿】

○自分の思いを生かしながら学級生活をよりよくしようとする子

【自分たちの生活は自分たちでつくっていかうとする姿】

【自分の考えを進んで伝える子】(自分)

○一人一人が自分の意見を明確にもつための学級会ノートの活用(事前)

児童一人一人が自分の意見を明確にもつために学級会ノートを活用し、事前に自分の考えをまとめることで、誰もが話し合いに参加できるようにした。また、準備の際に、司会へ「〇〇さんがこういう考えをもっている。」と伝えることができる。誰もが意見を持ち、それを表出できるチャンスを広げ、様々な意見を生かした話し合いとなるようにする。

○自分の意見を意欲的に伝えるための励ましのコメント(事前)

学級会ノートに書かれた児童の意見に対して、発言を促すようなコメント(言葉かけ)を書くことによって意欲的に発言できるようにする。

【一人一人のよさを認め合いながら活動する子】(仲間)

○めあてに沿った学級会になるための事前指導(事前)

今回の学級会のめあての中に「一人一人が仲良くなる」という言葉がある。一人一人が仲良くなるとはどういうことか一見考えやすいように思えるが、児童にとっては中々難しいと考える。そこで、学級会に向けてクラスで共通理解をするための時間をとることによって、めあてに近づくための円滑な話し合いができるのではないかと考えた。

○一人一人が参加している実感をもつための名前のマグネット(学級会)

黒板に名前のマグネットを貼ることで、一人一人が学級会に参加している実感がもてるようにする。

○消極的な児童も参加できる司会の声掛け(学級会)

反対意見に対しての改善案が出た際に、司会が「今の意見についていいと思った人は手を挙げてください。」と投げかけることによって、消極的な児童でも学級会で意思表示ができるようにする。

○めあてや提案者の思いを意識した話し合い(事前・学級会)

自分の意見を通すために「〇〇だから反対です。」のような否定的な意見で終わるのではなく、「だから、こうした方がいいです。」「だから、〇〇に賛成です。」といった、友達の考えを生かしたり良さを見つけたりしながら解決に向かう意見を言えることが望ましい。そこで、自分の意見だけにとらわれず、相手意識をもって話し合いが行えるよう事前に確認しておく。また、批判的な意見で話し合いが別の方向にそれた場合は、担任から助言し、友達の意見の良さに目を向けるようにしていく。

○反対意見を取り入れた板書計画(学級会)

賛成意見(名前のマグネット)と反対意見(水色の短冊)、そして改善案(黄緑色の短冊)の3つの意見が明確にわかるように板書計画を考えている。特に、自分の意見に対して反対意見が多かった場合に改善案の短冊を貼ることによって「自分の意見を支持してくれた」「自分の心配を解決してくれた」「自分の意見が生かされた」など、一人一人の意見を大切にすると共に、お互いのよさを認め合いながら話し合いが進む手立てとなるのではないかと考えた。

【自分の思いを生かしながら学級生活をよりよくしようとする子】(生活)

○実践及び実践に向けて一人一人の活躍の場の提供(事後)

学級会だけでなく、その後の実践でも一人一人が輝いてほしいと願っている。そのためには、今までの実践の反省点を踏まえた上で、入念な準備をするように声かけをしていく。

6. 活動の実際

(1) 事前の活動

活動の場	活動内容	支援（○）と評価（☆）
5月28日（月） 中休み	・司会グループで課題を選定する	○学級会へ向け、司会グループを中心に学級目標に近づけるような議題を選定するよう助言する。 ☆学級や学校の充実と向上に関心をもち、次の学級会で話したいことについて主体的に考え、実践へ向けて行動しようとしている。 (集団活動や生活への関心・意欲・態度)
5月29日（火） 中休み	・司会グループと提案者で話合いのめあてや役割分担、学級会の進め方について話し合う。	○話合いの進め方シートを用意し、企画の話合いを進めるように助言する。 ☆司会グループの役割や話合い活動の準備の仕方など、効率的な進め方を理解している。 (集団活動や生活についての知識・理解)
5月30日（水） 帰りの会	・司会グループから議題と話合いのめあてについて伝える。	○事務的な伝達ではなく、児童のやる気を引き出すような伝え方ができるように助言する。 ☆議題について受け止め、話合いの方向性について見通しをもっている。(集団の一員としての思考・判断・実践)
5月31日（木） 朝の会 中休み	・アイディアカードを出す。 ・出されたアイディアを短冊に整理して書く。	○柱1「一人一人が仲よくなれる集会でやること」についてのアイディアをカードに書くように伝え、事前に意見を把握しておくことで、話合いの方向性を確認できるようにする。 ☆議題について自分の考えをもち、学級会へ向けての見通しをもっている。 (集団の一員としての思考・判断・実践)
6月 1日（金） 朝の会 中休み	・短冊を見ながら、自分の考えを学級会ノートに記入する。 ・出された意見を確認する。	○短冊からめあてと合うものを選ぶように伝える。 ☆効率的な司会グループの運営や話合いの活動計画について考え、準備している。 (集団の一員としての思考・判断・実践) ○話合いが円滑に進むように、事前に意見を把握しておくことで、話合いの方向性を確認できるようにする。 ☆話合いの方向性について見通しをもっている。 (集団の一員としての思考・判断・実践)
6月 5日（火） 朝の会	・司会グループ・提案者で学級会の進め方について最終確認する。	○可能な限り、自分たちで計画できるよう見守り、必要に応じて助言する。 ☆効率的な司会グループの運営や話合いの活動計画について考え、準備している。 (集団の一員としての思考・判断・実践)

(2) 本時の活動

①ねらい

友達の意見を生かし合いながら、みんなが協力できる集会の内容を話し合って決める。

②活動計画

児童の活動	支援(○)と評価(☆)
<p>1. はじめの言葉</p> <p>2. 司会グループの紹介</p> <p>3. 議題の確認 「一人一人が仲よくなる集会をしよう」</p> <p>4. 提案理由の確認 「集会を通して、一人一人が仲よくなれば、4年1組の学級目標に近づけるのではないかと考え、提案しました。」</p> <p>5. めあての確認 「一人一人が仲よくなれる集会をみんなで考えよう」</p> <p>6. 決まっていることの確認 ・日時 6月15日(金)5時間目 ・場所 体育館 ・やること2つ ・プログラム</p> <p>7. 話し合い 柱①「一人一人が仲よくなれる集会でやること」</p> <p>① 出し合う ② 比べる ③ まとめる</p> <p>8. 決まったことの確認</p> <p>9. 振り返り</p> <p>10. 先生の話</p> <p>11. おわりの言葉</p>	<p>○声が聞き取りやすいことや、近くの人と相談しやすいことを考え、コの字型にする。</p> <p>○司会は、進行シートを見ながら進められるように助言する。</p> <p>○提案者が、どんな思いで提案をしたのかがクラス全体に伝わるように、事前に確認や助言をしておく。</p> <p>○めあてを意識した発言ができるように、事前に司会グループに助言をしておく。</p> <p>○事前に司会グループを中心に、プログラムを決めておくことで、話し合いの内容を明確にできるようにする。</p> <p>○進め方につまずいた時は近くで助言する。 ○話し合いのめあてからそれそうな時は、めあてを確認するよう声をかける。 ☆より良い学級や学校の生活づくりに向けて考え、判断し、建設的に話し合っている (集団の一員としての思考・判断・表現) ☆司会グループとして司会や記録などの役割を積極的に果たしている。 (集団の一員としての思考・判断・表現)</p> <p>○司会グループの頑張っていた点、めあてや友達を意識した意見や態度などを見つけて、称賛し、意欲をもって取り組めるようにする。</p>

③本時の視点

- ・友達の意見を受け入れた話し合いになっていたか。
- ・めあてを意識して話し合いをすることができたか。
- ・教師の言葉かけは適切だったか。

④板書計画

第3回 四年一組学級会

議題

「一人一人が仲よくなる集会をしよう」

決まっています

- ・日時 六月十五日(金) 五時～五時四十分
- ・場所 体育館
- ・やることを二つ決める。
- ・プログラム

提案理由

集会を通して、一人一人が仲よくなれば、四年一組の学級目標に近づけるのではないかと考え、提案しました。

めあて

「一人一人が仲よくなる集会をみんなで考えよう。」

話し合い

①一人一人が仲よくなる集会でやること

- ・新聞リレー
- ・じゃんけん列車
- ・ドッジボール
- ・だるまさんが転んだ
- ・どんじゃけん

決まったこと

(3) 事後の活動

活動の場	活動内容	支援 (○) と評価 (☆)
6月11日(月) 朝の会	・役割分担を決める。	○これまでの経験から必要な役割を考えるよう助言し、考えて全員で分担するようにする。 ☆必要な役割分担を考えている。 (集団活動や生活への関心・意欲・態度)
6月11日(月) 中休み～	・役割分担に基づいて準備をする。	○協力して準備ができるよう声をかける。 ☆決まった役割の準備を協力して進めている。 (集団活動や生活への関心・意欲・態度)
6月15日(金) 5校時	・集会を行う。	○安全に取り組みやすいように見守り、必要に応じて助言する。 ☆自他の役割などについて考え、みんなで決めた内容について信頼し、支えあって実践している。 (集団活動や生活への関心・意欲・態度)
6月19日(火) 朝の会	・実践後の振り返りを行う。	○振り返りカードにめあてに沿った実践ができたかということを中心に振り返りを書くように伝える。 ☆みんなで決めたことをみんなで実践することの意義について理解している。 (集団活動や生活についての知識・理解)

